

編集後記

『語文と教育』第三十四号をお届けいたします。

新型コロナウイルス感染症という一つの病気が、私たちの日常をすっかり変えてしまいました。オンライン授業など、これまでとはまったく違う学びの形が求められ、五里霧中といった状態で皆が模索を続けています。このような時だからこそ、子どもたちは何をどう学んでいるのかという原点に立ち返り、教育のあり方を考えることが大切だと感じます。

本号は、国語科教育四編、国語学一編、日本語教育三編の計八編の実践・研究論文と、書評一編で編集しました。多彩な研究分野から、熱意に満ちた実践・論考が届いています。皆様のご批評を賜りましたら幸いです。

さて、長く古典文学分野を支えてくださいました小島明子先生が、本年三月をもって転出されました。平成二十三年のご着任以来、古典文学の面

白さ、研究することの楽しさを、古典が苦手な学生たちの心にも届くようにご指導くださいました。先生の愛に満ちた毒舌の数々は、今も語り継がれています。改めて感謝申し上げますとともに、今後の更なるご活躍をお祈りいたします。後任として、四月より平川恵実子先生をお迎えしました。言語実験室の管理など長い間、国語コース・国語科教育実践分野の補助を務めてくださいましたので、よくご存じの方もいらつしやると思います。寺院文書の調査、中世の説話文学、南方熊楠研究など、幅広いご関心をお持ちの平川先生が、国語コース・分野にも新しい風を吹き込んでくださることと期待しております。

最後になりましたが、この一年も多くの大学・機関より本学会宛に研究資料をご寄贈いただきました。大切に保管し、研究・教育に活用したいと考えております。謹んで御礼申し上げます。

(幾田記)

語文と教育 第三十四号

令和二年九月三十日印刷
令和二年九月三十日発行

(非売品)

編集人 鳴門教育大学国語教育学会

発行人 鳴門市鳴門町高島字中島七四八

(〒七七二一八五〇一)

鳴門教育大学大学院

国語科教育実践分野内

鳴門教育大学国語教育学会

会長 余郷 裕次

印刷所 協徳島印刷センター